

奄美初の日本語学校開校

14人入学 文化交流、地域活性化期待

奄美群島初の日本語学校「カケハシインターナショナルスクール奄美校」（浜崎幸生理事長）の開校入学式が10日、奄美市名瀬の奄美観光ホテルであった。ベトナム、カンボジアから計14人の1期生が入学。日本語習得をはじめ、地域とのふ



れあいを通じた文化体験活動なども予定されており、地元との異文化交流の促進、地域活性化への貢献などにも期待がかかる。

川智尚代表の共同運営で新規開校。主にアジア圏の外国人を募集し、入学時期を4月（2年コース）と、10月（1年半コース）2回に分けて、年間40人の留学生の受け入れを目標としている。

関係者なども出席し、朝山毅奄美市長は「14名の皆様、入学おめでとうございます。学びを深め、異文化や多様性に対する理解と知識を深めてもらい、価値観や視野を広げ、日本奄美とアジアをつなぐ『カケハシ』になってくれることを願います」とあいさつした。

学校関係者によると、それぞれの語学レベルに合った5段階のクラスで、年間760時間を超えるカリキュラムを用意。学校は13日から始まる予定という。

開校入学式にあたり、浜崎理事長が「こころは、素晴らしい自然と人情豊かなところ、きつとみなさんを温かく迎えてくれるだろう。本校は心の教育を基本理念とし、あらゆる分野の実践教育をしていきたい」と歓迎。会場には多数の行政

トナムから12人、カンボジアから2人が入学した。多くがスーツ姿で出席するなか、色鮮やかなアオサイ（ベトナムの正装）を着用し、式に臨んだ人も。杉村克江校長から、一人一人に入学証書が手渡され、杉村校長は「今日から学校の歴史が始まる。作るのはみなさんと、地域の皆様。地元の人たちとも良く話を

奄美群島初の日本語学校「カケハシインターナショナルスクール奄美校」が開校し、東南アジアから14人が入学した

した

ついでに「おめでとう」を呼びかけた。

ベトナムで自動車、農業機械関連の会社に勤める、ブイ・バン・ホンさん（35）は、「心配もあるが、精いっぱいがんばりたい。文化などの理解も深め、日本語の習得後は、国に戻って日本企業との取引などに生かしていきたい」と抱負を語った。